

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年12月27日

協議会名: 津山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

補助対象事業者等	事業概要	前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
中鉄北部バス(株)	津山西循環線 (津山～マルナカ院庄店～津山)	循環線だけでなく、接続する幹線路線やその他枝線についても、乗降調査などをH27.6～7月、H29.7月に実施した。加えて、イオン前バス停の利用動向調査をH28.3～4月に、東循環線の利用動向調査をH28.9を実施した。 これに基づき乗り継ぎの状況や、利用者ニーズの把握し、「イオン前バス停の改善」、「小循環線の津山駅南への延伸」、「加茂支所線、勝北支所線、(奥津川)勝北線のダイヤ改正」を行った。 H29.4月の「津山駅北口広場」の整備に伴い、バス乗降場所が変更となったため、「ごんごバス各循環線」に搭載した、「バスロケーションシステム」の情報を表示する「バス電光掲示板」をバス乗り場に2基設置し、利便性の向上に努めた。	A	・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。	B H28:9,632人に対し、H29:9,021人の利用者。約6.3%の減少となり、目標の2%増は達成できなかった。 全般的に減少しており、接続する幹線バス等の利用者減少が要因と推察される。
	マルナカ西循環線 (マルナカ院庄店～津山～マルナカ院庄店)	H29.4月の「津山駅北口広場」の整備に伴い、バス乗降場所が変更となったため、「ごんごバス各循環線」に搭載した、「バスロケーションシステム」の情報を表示する「バス電光掲示板」をバス乗り場に2基設置し、利便性の向上に努めた。 併せて前述の「イオン前バス停」の変更に伴い、店内に同様の「バス電光掲示板」を設置した。 H30.3月までにさらに拡充し、バスの利便性向上を高める予定である。	A	・計画どおり事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善を図っている。	B H28:8,779人に対し、H29:8,897人の利用者。約1.3%の増加、堅調ではあるが、目標の2%増は達成できなかった。
	小循環線 (津山～鉄砲町～津山)	「津山市地域公共交通網形成計画」をH29.4月に策定後、意識啓発のために、「公共交通利用の日」制定前イベントの実施を検討し、H29.11月に「津山駅北口広場」で実施した。その際には、「東循環線」において高校生による「バスコンシェルジュ」も実施し、利用意識の啓発に努めた。	A	・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。	B H28:6,566人に対し、H29:6,615人の利用者。約0.7%の増加で、堅調ではあるが、目標の2%増は達成できなかった。
	加茂支所線 (イオン津山店前～めぐみ荘)	「網形成計画」中に記載の「2種免許取得支援事業」を、平成30年度より、「津山圏域定住自立圏」の枠組みで実施する予定。これによる効果を路線維持確保につなげていく。	A	・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ時刻改正を実施するなど必要に応じた改善をはかっている。	B H28:14,635人に対し、H29:14,683人の利用者。約0.3%の増加となり、目標の2%増は達成できなかった。一方で、H29.4にめぐみ荘利用者のためのダイヤ改正を行うなどにより、一定の成果を得たものと評価している。

利用者が全体的に減少しており、接続する幹線バスや一部並行して運行している共同バスの動向を注視しながら、利便性向上と利用周知を実施していく。
津山圏域定住自立圏の枠組みで、隣接する鏡野町と「津山・鏡野町バス連携事業」を実施中。その中での自治体間の動態調査なども実施しており、その結果を踏まえ、路線のあり方や利用周知・利便性向上を図っていく。

幹線路線とごんご米線が両方接続する路線であり、増加につながったと推測され、引き続き利用周知を図っていく。
津山圏域定住自立圏の枠組みで、隣接する鏡野町と「津山・鏡野町バス連携事業」を実施中。その中での自治体間の動態調査なども実施しており、その結果を踏まえ、利用周知・利便性向上を図っていく。

H29.11より、観光客などの利用促進のため、津山駅南の「津山まなびの鉄道館」を循環するルートに変更した。その効果を検証しながら、観光路線としての側面についても調査・研究を実施していく。

めぐみ荘利用者に対するダイヤ改正により一定の効果が出たが、加茂地域から旧津山地域へ向けての利便性は悪くなったとの意見もあり、相互に利便性向上を図るダイヤについて検討していく。
沿線の市営住宅・県営住宅などの近くへのバス停設置など、利用者が見込める路線経路について検討していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年12月27日

協議会名: 津山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

補助対象事業者等	事業概要	前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	事業の今後の改善点 (特記事項を含む)		
中鉄北部バス(株)	勝北支所線 (イオン津山店前～新野桜橋)	前頁、前項と同じ	A	・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ時刻改正を実施するなど必要に応じた改善をはかっている。	B	それぞれH28:6,101人、2,628人に対し、H29:5,553人、2,307人の利用者。それぞれ約9.0%、約12.2%の減少となり、目標の2%増は達成できなかった。 H27改正ダイヤが利用者にとって不評であり、H29.4に以前の運行ダイヤに戻すなどを行ったが、離れてしまった利用客を取り戻すことができず、減少の結果となった。	利用時間帯の考慮や安全運行の観点からダイヤ改正を実施したが、バス待ちでの買い物時間が確保できないということで一部利用者から不評であった。ダイヤについては、利用者意見を慎重に調査し検討していく。また、利用周知なども併せて実施していく。
	(奥津川)勝北支所線 (イオン津山店前～奥津川)		A	・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。	B	H28:88,722人に対し、H29:84,815人の利用者。約4.4%の減少となり、目標の2%増は達成できなかった。主要なバス停での利用者減少が顕著であり、目標を達成することができなかった。	主要なバス停である「中央病院」「イオン津山店」などで利用者が減少した。H29.7に「イオン津山店」では、店舗入り口にバス停を移設するなど利便性向上を図っており、その効果を引き続き検証し、更なる利便性向上を図っていく。
	津山東循環線 (津山～イオン津山店前～津山)		A	・計画どおり事業は適切に実施された。	A	H28:860人に対し、H29:1,124人の利用者。約30.7%の増加となり、目標の2%増を大幅に上回り、目標を達成することができた。	運転手の高齢化が進んでおり、運転手確保に関して、根本的な解決にいたっていない。他の同様運行の事例を参考にしたり・視察を行い運転手確保の方策を研究・検討していく。
特定非営利活動法人エコビレッジあば	阿波区域	NPOより、地域だよりを配布し利用促進・啓発している。 NPOより、阿波地域内でのイベントなどへのお出かけ時に、阿波区域運行を利用するよう阿波の地域団体などに働きかけをしている。	A	・計画どおり事業は適切に実施された。	A		

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年12月27日

協議会名:	津山市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	本市は岡山県北東部に位置し、人口102,949人(平成29年1月1日)、総面積506.33km²で、県内第3の人口規模である。平成17年に旧加茂町、旧阿波村、旧勝北町、旧久米町と合併し、美作地域の中心都市としての役割を担っている。 地勢としては、岡山三大河川の吉井川が貫流する市内中心部の盆地を囲むように、中国山地、吉備高原に接しており、林野面積は342.57m²で総面積の60%以上を占めている。 人口構成としては、65才以上人口は30,032人と人口の29.1%を占める一方、15歳未満人口は13.5%となっており、少子高齢化、人口減少が進んでいる。 平成22年3月に「津山市地域公共交通総合連携計画」を策定し、再編実施等を行い、一定の成果を得たところであるが、公共交通を取り巻く環境は大変厳しく、事業者収支も逼迫し、行政からの補助がなければ維持できない状況である。 こうした中、平成28年度に「津山市地域公共交通網形成計画」を策定し、『みんなに「やさしい」「持続可能」な公共交通』、『「まちづくり」といっしょに進める公共交通』、『「交流」と「にぎわい」を創り出せる公共交通』を基本方針とした、公共交通施策に取り組んでいるところである。 免許返納者など交通弱者のニーズ対応や、公共交通運行の下支えとなる「2種免許取得支援」、全市的な「公共交通利用の日」の設定検討などの事業をすすめるとともに、広域的な視点を有し、乗り継ぎ拠点での幹線路線とフィーダー系統路線の結合等による効率的な運行などの新たな公共交通体系の確立を目指していく。

平成29年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

津山市地域公共交通協議会

生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



別添2

津山市の概要

- ・平成17年2月に1市3町1村が合併
- ・人口 103,746人(平成27年度国勢調査)
- ・面積 506.36km²

津山市地域公共交通交通会議の構成員

学識経験者、地域住民の代表、中鉄北部バス(株)、JR西日本(株)、岡山県タクシー協会津山支部、事業者労組、津山警察署、津山市、岡山県、岡山運輸支局

概 要

津山市では、不採算路線路線のバス廃止の可能性の増大、合併前に旧市町村がそれぞれ独自に行っていた路線の混在と不均衡、周辺市町村からの多数の乗り入れ路線のわかりにくさ、また、住民ニーズの多様化に伴うコミュニティバスの運行委託による自治体の負担増大など様々な問題が平行して混在していた。

これらの問題を改善すべく、平成22年3月に「津山市地域公共交通総合連携計画」を策定した。この計画では、整理・是正により効率的な公共交通体系に再編を実施、公共交通の利便性向上、利用促進により、維持継続出来る地域公共交通体系づくりを目的とした。利用者が減少する中、事業者収支の逼迫により、行政からの補助により維持している状況であったが、将来的にも継続可能な公共交通体を維持していくために、地域内フィーダー系統確保維持事業を活用した市内の地域公共交通の維持継続に取り組んだ。

平成22年10月に加茂支所線、勝北支所線、(奥津川)勝北支所線、東循環線、平成23年12月から小循環線、平成24年10月から阿波過疎地有償運送の運行を開始し、平成25年4月には西循環線、東循環線等の改正を実施した。

平成29年3月には「津山市地域公共交通網形成計画」を策定。基本方針は「みんなに『やさしい』『持続可能』公共交通」とし、引き続き路線の維持継続を目的とした事業実施。あわせて、「『まちづくり』といっしょに進める公共交通」、「『交流』と『にぎわい』を創り出せる公共交通」という2つの基本方針に基づき、「まちづくり」や「交流」の観点からの公共交通の利便性向上や利用促進事業を実施している。引き続き地域の状況を把握し、実施内容の評価検証を実施し、必要な改善を行いながら、利用しやすい交通体系を進め、地域内フィーダー路線の運行維持と利用の促進を進めていく。

協議会の主な取り組み

- ・効率的運行体系構築、競合路線の解消等
- ・公共交通結節点における停留所整備
- ・わかりやすい情報案内の提供
(バス電光掲示板の設置、バスロケーションシステムの導入など)
- ・交通空白地へのフィーダー交通の導入
- ・利用者の意見に基づく経路変更
(東循環線のイオン津山店バス停の変更、小循環線の津山駅南への延伸、加茂支所線の経路変更など)

協議会における検討

- ・平成28年12月15日開催 協議会の開催状況(合計9回)
 - ・平成29年1月23日開催 H28年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価
 - ・平成29年3月30日開催 津山駅北口広場整備に伴う、生活交通確保維持改善計画(H29～31)の路線変更等協議
 - ・平成29年4月26日開催 津山駅北口広場整備に伴う、生活交通確保維持改善計画(H29～31)の路線と接続する、幹線や他バス路線の時刻改正「公共交通網形成計画」策定に伴う、生活交通確保維持改善計画(H29～31)の変更(書面審議)
 - ・平成29年5月30日開催 東循環線のイオン津山店バス停変更
 - ・平成29年10月10日開催 小循環線の津山駅南への延伸について協議
 - ・平成29年12月14日開催 H29年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価
- その他に期間中「網形成計画」策定やその他案件に係る協議を2回実施

定量的な目標・効果

全域

- (目標) ・中鉄北部バス株式会社によるフィーダー路線(系統(1)～(7)) について、H29路線利用者 2%増 (H28対比)
- ・特定非営利企業エコビレッジあば運行路線(系統(8)) について、H29路線利用者 2%増 (H28対比)
- (効果) ・当該路線を維持することにより公共交通空白地域を解消し、高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、路線バスと連携することにより、広域的な移動利便性が向上する。
- ・通学手段が確保されることにより、父兄等における送迎の負担軽減及び自動車利用の抑制が図る。

昨年度の自己評価に対するフォローアップ

循環線だけでなく、接続する幹線路線やその他枝線についても、乗降調査などを実施し、乗り継ぎの状況や、利用目的と動態調査を行い、利用者ニーズの把握にあたっている。

昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

さらなる接続の改善、利用促進に向けて、循環線だけでなく、接続する幹線路線やその他枝線についても、乗降調査も行い、他の循環系統との乗り継ぎのニーズなど広域的な実態を検証している。

実施した利用促進策

- ・利用者からバス停が遠いと苦情が多かったイオン津山店バス停を、店舗に横付けする形に変更
- ・要望の多かった「まなびの鉄道館」と駅南の交通空白地を運行するように、小循環線を延伸した。
- ・H29年11月に「公共交通網形成計画」に基づく「公共交通利用の日」設定にむけて、公共交通利用啓発イベントを「津山駅前北口広場」にて実施。

地域住民の意見の反映

- ・H27年10月から開始の、「津山市バス利便性向上及び利用促進事業」中で、東循環線車内、バス停等において利用ニーズの聞き取り調査を実施。
- ・H28年9月～11月に「網形成計画」の基礎となる、市民アンケート、事業者ヒアリングなどを実施。意見を計画に反映させるとともに、フィーダー路線に対するバス停や運行経路などの市民ニーズを収集。
- ・H29年6月に幹線なども含めた市内路線の乗降調査を実施。
- ・H29年11月の啓発イベントにて、公共交通意識調査を実施。
- ・H29年12月に「津山・鏡野間バス連携事業」として、津山市、鏡野町において、OD的手法を用いたアンケート調査を実施。
(広域連携事業として実施)

津山市地域公共交通協議会 事業の評価

事業実施の適切性

すべての路線において、計画どおり実施された。

西循環線、マルナカ西循環線：

旧津山市西地区の基幹となる路線で、久米地域からの接続路線である。利用者へも路線内容が浸透し堅調に推移しているが、マルナカ西線に比べ、西循環線の利用者が減少しており原因調査が必要である。

小循環線：旧市内中心部の交通空白地を運行しているが、新たに「まなびの鉄道館」「津山駅南の公共交通空白地」を新たに運行することとし、新たな需要の取り込みを期待している。

加茂支所線、勝北支所線、同(奥津川)線：

要望・運行状況を踏まえ、ダイヤ改正などを図っているが、路線区域の人口減少や要望に応じた運行ダイヤの設定がヘビーユーザーにマッチせず、利用が一旦離れてしまった影響が大きい。

東循環線：再編により利用者増加の傾向で推移していたが、減少傾向に転じている。利用者の多い主要バス停での利用者減が要因と考えられ、原因を究明し、利用促進をはかっていく必要がある。また、渋滞による時刻の遅れが発生しており、運行ダイヤなどについて検討が必要。

阿波区域：阿波交通空白地有償運送の実施により、交通空白地域の利便性の向上が図られ、予想を上回る乗車実績で引き続き推移している。

目標・効果達成状況

すべての路線において、H28年度利用者数に対し、2%増を目標として設定している。

西循環線	：H28年度利用者	9,632人	H29年度利用者	9,021人(約6.3%減)	目標達成とはならなかった。
マルナカ西循環線	：H28年度利用者	8,779人	H29年度利用者	8,897人(約1.3%増)	目標達成とはならなかった。
小循環線	：H28年度利用者	6,566人	H29年度利用者	6,615人(約0.7%増)	目標達成とはならなかった。
加茂支所線	：H28年度利用者	14,635人	H29年度利用者	14,683人(約0.3%増)	目標達成とはならなかった。
勝北支所線	：H28年度利用者	6,101人	H29年度利用者	5,553人(約9.0%減)	目標達成とはならなかった。
勝北支所(奥津川)線	：H28年度利用者	2,628人	H29年度利用者	2,307人(約12.2%減)	目標達成とはならなかった。
東循環線	：H28年度利用者	88,722人	H29年度利用者	84,815人(約4.4%減)	目標達成とはならなかった。
阿波区域	：H28年度利用者	860人	H29年度利用者	1,124人(約30.7%増)	目標を達成することができた。

事業の今後の改善点

西循環線、マルナカ西循環線：

いずれの路線も、引き続き利用者動向の調査を実施し、引き続き利用促進を図る。また、隣接する鏡野町と広域的な利用に関する協議を実施していく。

小循環線：新たな経路運行による効果を測定し、引き続き利用者増を図っていく。

加茂支所線、勝北支所線、同(奥津川)線：

いずれの路線も、引き続き利用者動向の調査を実施するとともに、利用者ニーズにマッチする運行ダイヤの検討・実施を行っていく。

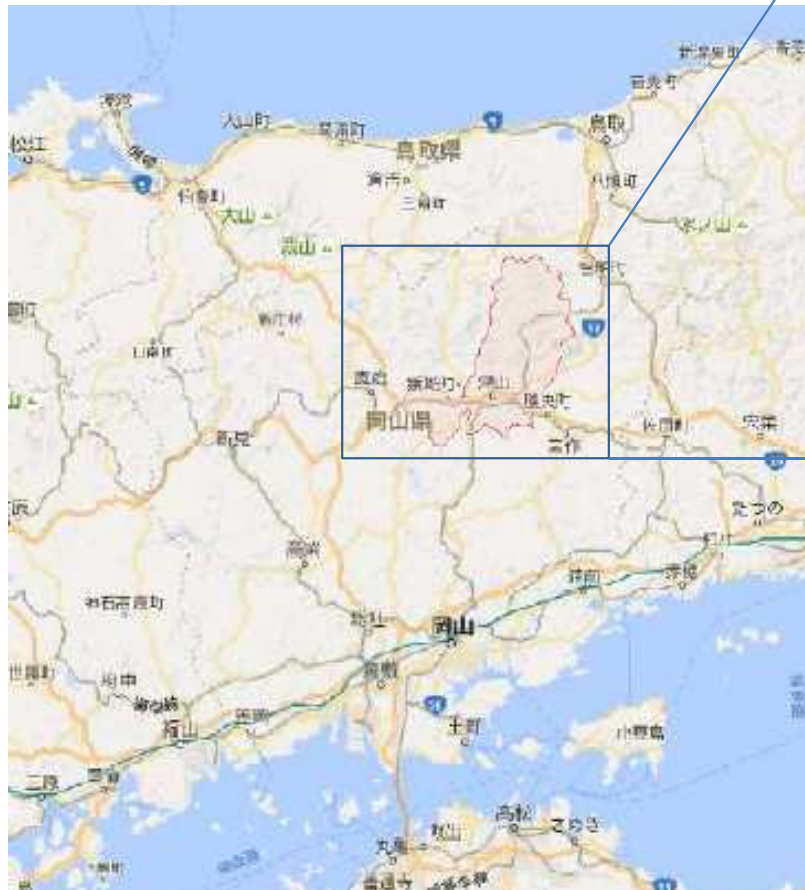
東循環線：主要バス停での利用者減について、継続的な調査を行い、原因を究明していく。

阿波区域：運転手の高齢化がすすんでおり、後継者の育成等について実施を検討していく。

全 体：「津山市地域公共交通網形成計画」に基づき、「公共交通利用の日」の設定などを行い、利用啓発・促進・周知をすすめていく。

交通体系図 別紙

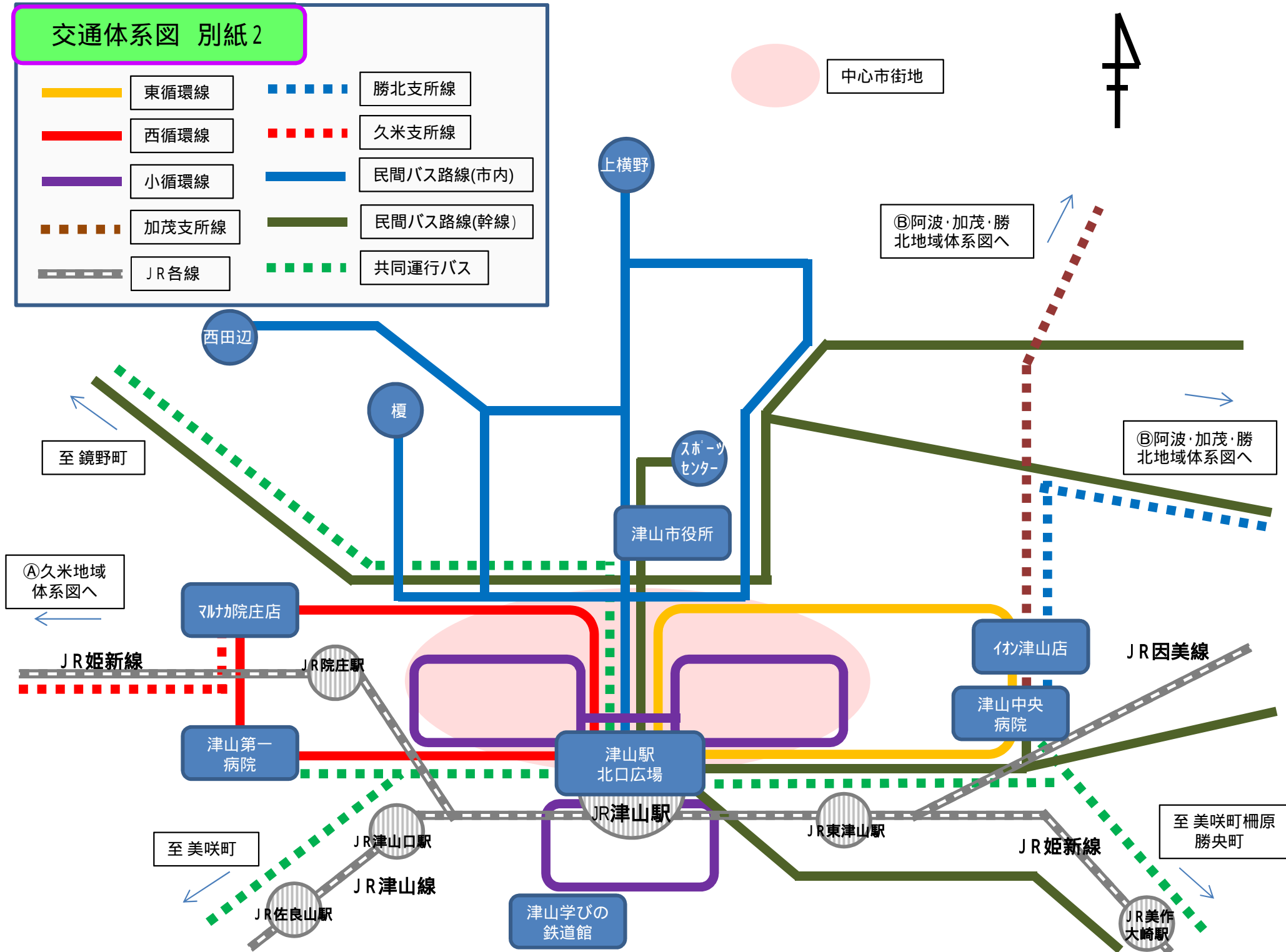
【津山市の位置】



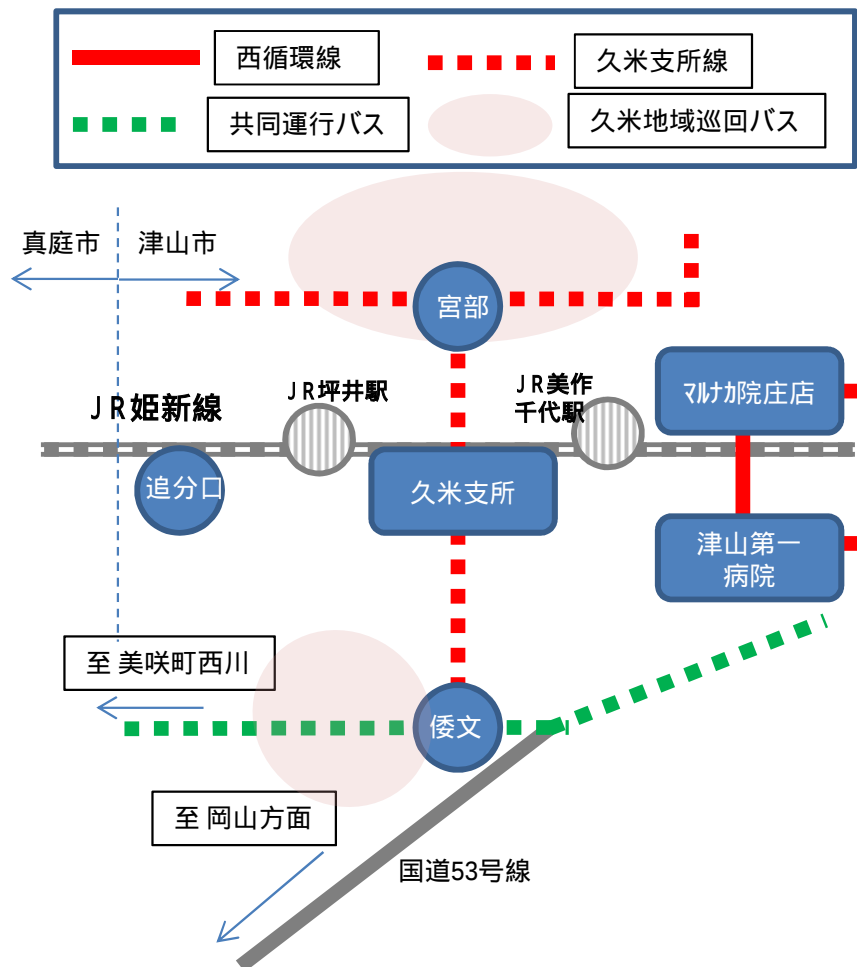
【津山市の公共交通】

- ・ 鉄道：J R 津山線、JR因美線、JR姫新線
- ・ 4 条バス路線：中鉄北部バス、加茂観光バス 計28系統
- ・ 市営阿波バス、地域巡回バス(有償3路線)、
他自治体との共同バス(3路線)
- ・ 交通空白地有償旅客運送(阿波地域)
- ・ 市内タクシー事業者13社

交通体系図 別紙2



④ 久米地域公共交通体系図



阿波交通空白地
有償運送区域

阿波出張所

物見奥

津山市

めぐみ荘

加茂支所

JR美作河井駅

JR知和駅

JR美作加茂駅

JR因美線

JR三浦駅

JR美作滝尾駅

JR高野駅

勝北支所

津山市

奈義町

いわ津山店

津山中央病院

加茂支所線

勝北支所線

東循環線

民間バス路線(幹線)

民間バス路線(加茂地域)

市営阿波バス

加茂地域巡回バス

勝北地域巡回バス

阿波交通空白地
有償運送

運行系統図 別紙

系統名 : 西循環線、マルナカ西循環線
 運行日 : いずれも毎日運行
 運賃 : 大人200円、こども100円

運行形態 : いずれも4条路線
 便数 : 西循環線 6便/日、マルナカ西循環線 4便/日

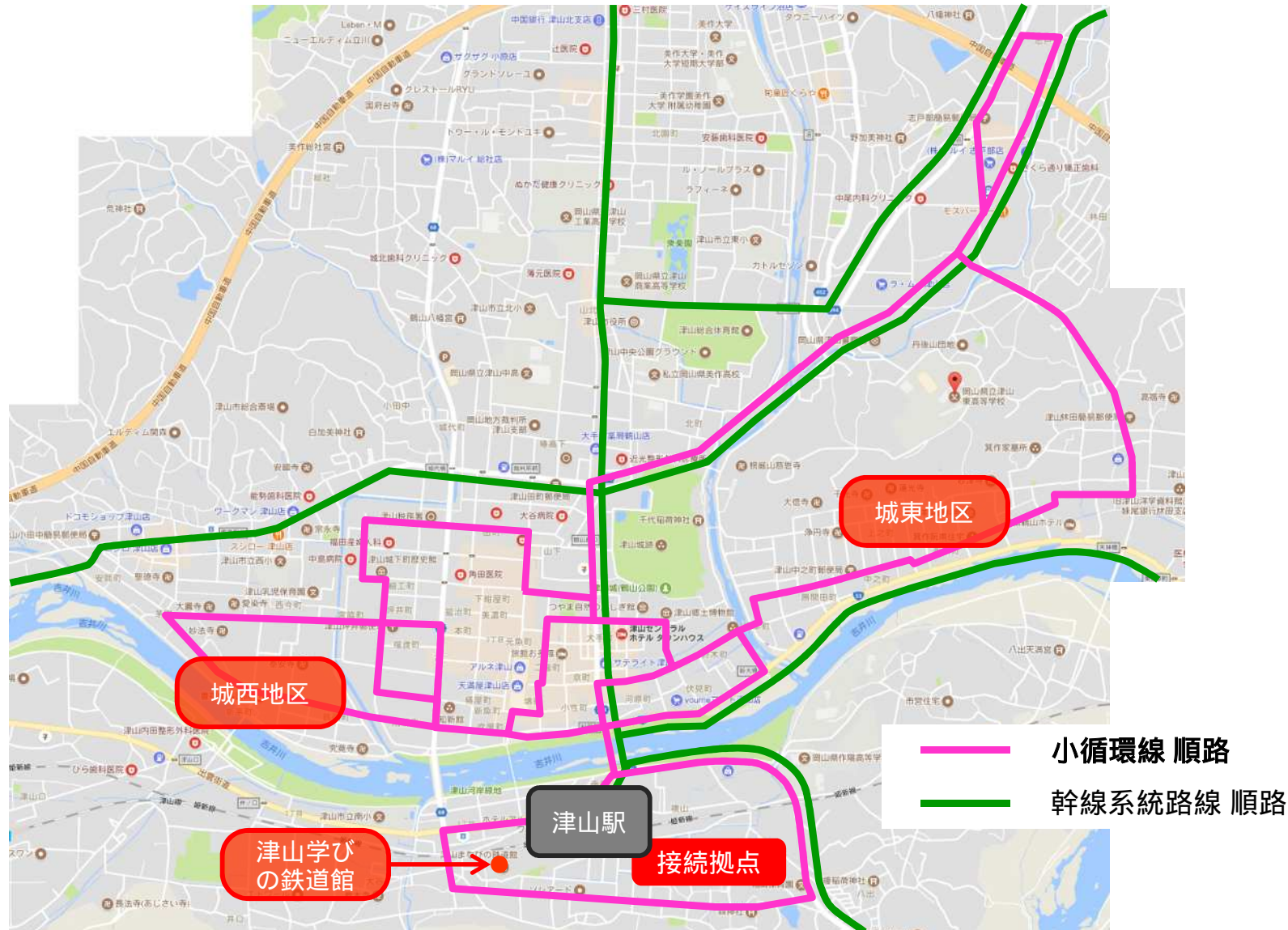


- 西循環線、マルナカ西循環線 順路
- 幹線系統路線 順路
- ごんご久米線 順路

運行系統図 別紙

系統名 : 小循環線
 運行日 : 毎日運行
 運賃 : 大人200円、こども100円

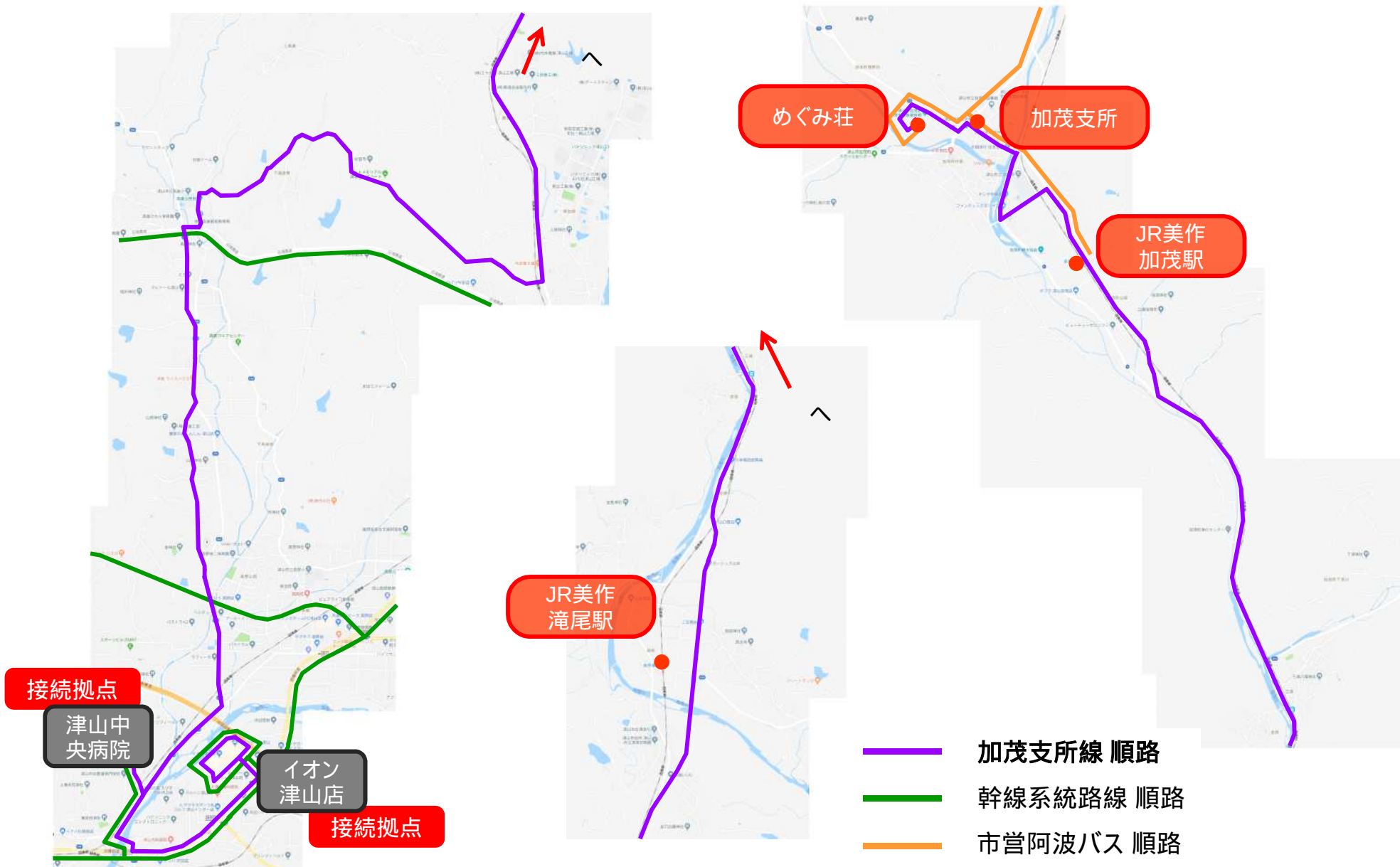
運行形態 : 4条路線
 便数 : 9便 / 日 (H29.10.6からは 7便 / 日)



運行系統図 別紙

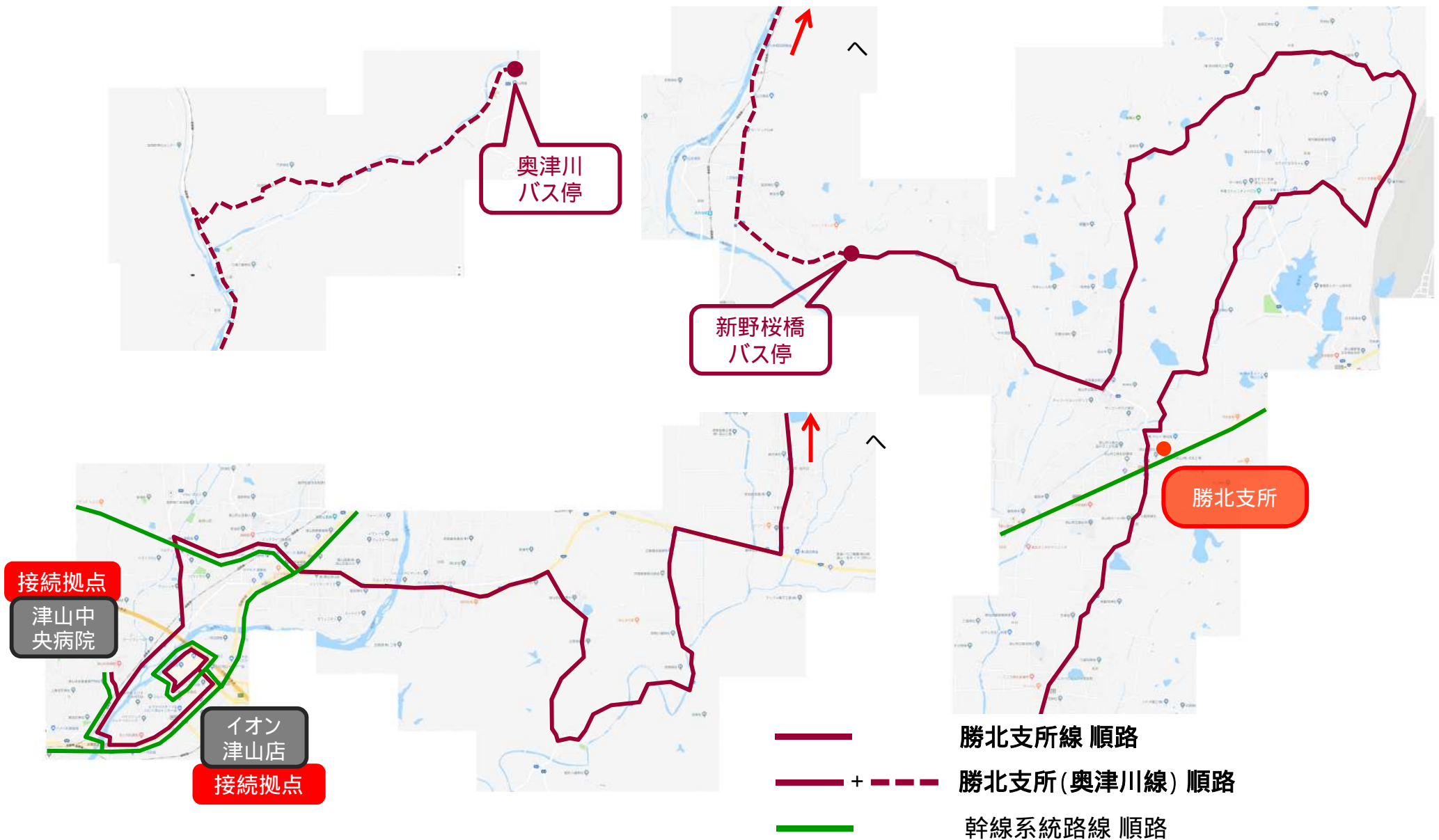
系統名 : 加茂支所線
運行日 : 毎日運行
運賃 : 大人200円、こども100円

運行形態 : 4条路線
便数 : 6便/日



運行系統図 別紙

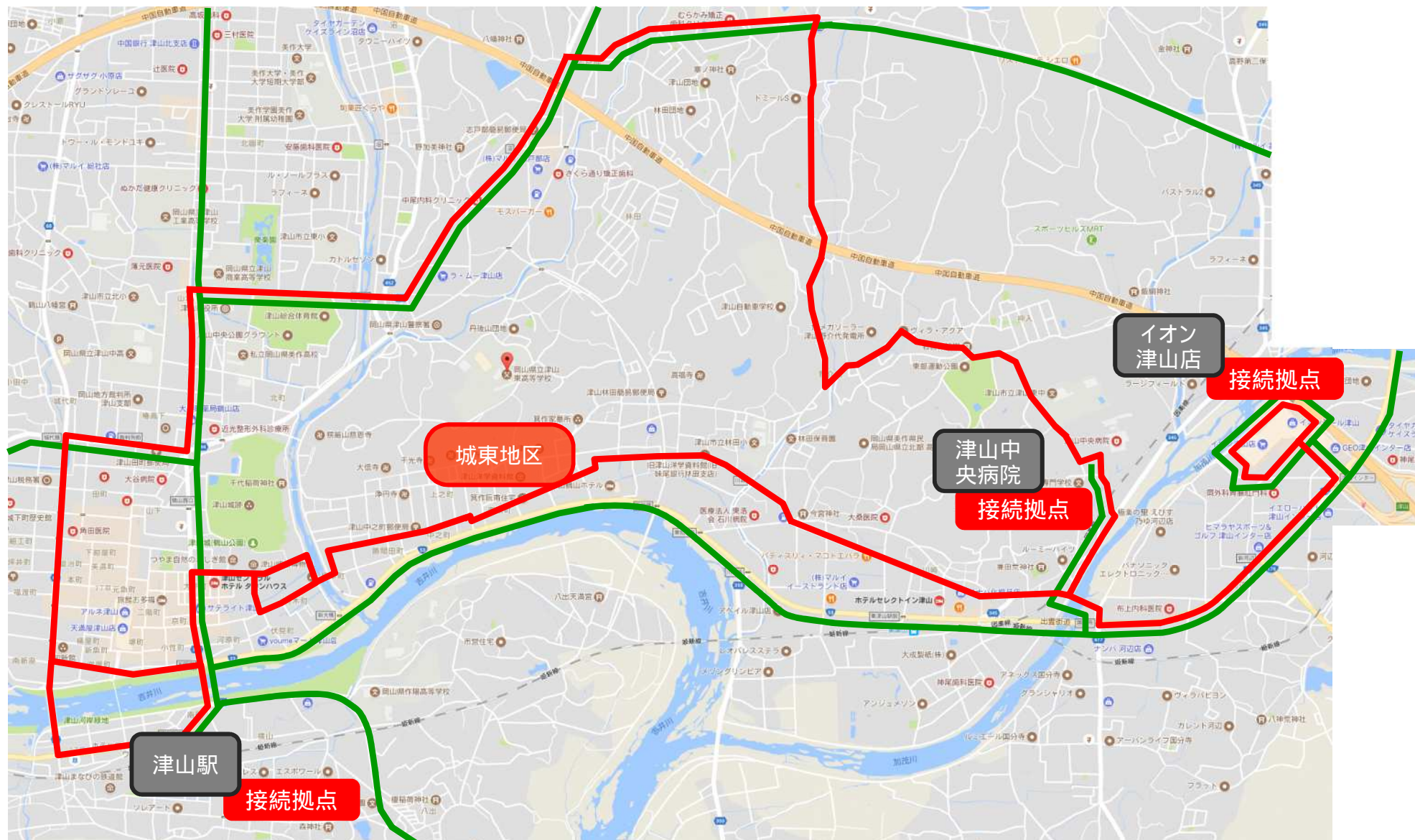
系統名 : 勝北支所線、勝北支所(奥津川)線 運行形態 : 4条路線
 運行日 : 勝北支所線は日、火、水、金、土運行、勝北支所(奥津川)線は月、木のみ運行 便数 : いずれも6便/日
 運賃 : 大人200円、こども100円



運行系統図 別紙

系統名 : 東循環線
 運行日 : 毎日運行
 運賃 : 大人200円、こども100円

運行形態 : 4条路線
 便数 : 18便 / 日



運行系統図 別紙

系統名	: 阿波地域	運行形態	: 79条路線
運行日	: 毎日運行	便数	: 不定期運行(デマンド)
運賃	: 阿波地域内100円、阿波地域から美作河井駅200円		

